

滿洲國の將來

目次

太行の嶮、蜀道の難	一
人和の難——天利の難	
滿洲の鑛產物	二七
金——石炭——油頁岩——鐵——銅、銀、鉛、滿俺——石油——マグネシウム、アルミニウム——鑛業原料——曹達	
滿洲の農產物（油料）	五六
大豆——高粱、粟、黍——玉蜀黍——小豆、綠豆——小麥、燕麥、蕎麥——落花生——胡麻——葵子——亞麻——苧麻——大麻——棉實——瓜	

目次

子——向日葵——油菜——紅花——澤漆——杏——胡桃、松子

滿洲の農産物(纖維)……………一〇九

野蠶——綿——大麻——亞麻——苧麻——ヒビスクス屬——ジエート

——クロタラシ——ラミ——其他の纖維植物

滿洲の農産物(澱粉)……………一三二

米——麥——粟、黍、高粱——馬鈴薯——甘薯——里芋、薯蕷——蒟蒻、

蕪根、慈姑——百合、葛——マニホット——甜菜——醸造

滿洲の農産物(香料、醫藥、樹果、蔬菜)……………一五一

チムス——排艸、香薷、薄荷——モスラ、ネペタ、サルヴェア——蔞蘿、

アングリカ、柴胡——川芎、蛇床子、コリアンドルム——小茴香、カラ

ウエイ——防風、山椒——ラウエンダ——ハマナス——人參、麻黃——

鹿茸——蜂蜜、蜂蠟——樹果と蔬菜

滿洲の畜産物……………一七四

乳牛及乳製品——肉製品——養豚——牛肉と豚肉——畜羊——飼料——

家禽——兎

滿洲の林産と水産……………一九五

毛皮——貂鼠——灰鼠と鼯——狐と旱獺——虎——豹、狼、鹿、獺——

羊皮——樹膠——樹果——水産物

滿洲の水利と交通……………二二四

水利と水運——滿洲水利の第一——奉天海港と新運河——滿洲の農功始

めて起る——滿洲死活の分るゝ所——三位一體——滿洲の鐵道——三大

港——中心港灣は奉天——山海關と安東——大連港の使命

滿洲の工業……………二四五

目次

目 次

重工業——輕工業——工業家の二要素——先づ技術の習熟——企業上の
 二大障害——關稅改正の急務

滿洲の商業と移民二六一

商業の現在と將來——人口と富強——人口と知識——大和民族の使命——
 ——滿洲移民の門戶

結 論二七二

草棉幹及黃麻張力比較實驗報告表

附 錄

滿洲國稅關輸入稅率一覽

滿洲略圖

滿洲起伏略圖

大豆作付の分布圖

大豆總作付面積に對する分野圖

高粱作付の分布圖

高粱總作付面積に對する分野圖

玉蜀黍作付の分布圖

玉蜀黍作付面積に對する分野圖

小麥作付の分布圖

小麥總作付面積に對する分野圖

粟作付の分布圖

粟總作付面積に對する分野圖

無霜平均日數の分野圖

等雨量及等溫線の分野圖

京都と滿洲各地との氣象對照表(其一)

目 次

目 次

平均氣温、平均最高氣温、平均最低氣温、最高日温、地面濕度、最低地温、
地中濕度、水蒸氣張力、濕度、最小濕度

京都と滿洲各地との氣象對照表（其二）

降水量、降水最大日量、降水四時間最大量、降水日數、降雪日數、快晴日
數、曇天日數、日照時數、蒸發量（箱外）、蒸發最大量

滿洲重要礦産分布圖

滿洲農業地帯分布圖

滿洲氣温圖 一月

滿洲氣温圖 七月

滿洲雨量圖 全年

滿洲雨量圖 四、五月（發芽期）

滿洲雨量圖 七月（最多雨量期）

滿洲國之將來

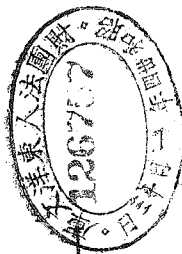
大 谷 光 瑞

太行の嶮、蜀道の難

一 人和の難

和 天 利 と 人
滿洲國は成立せり。然れ共前途は、太行の嶮、蜀道の難無さに非らず。
凡そ國の興るや、天利、人和兩ながら存せざるべからず。滿洲國は天利無
きに非らざれ共、人和動もすれば之を缺く。我帝國の如きは、その興國に
於ては皇讓適遠、臣民一心是を圖り、是を行ふ。如此きは宇内その比を見

太行の嶮、蜀道の難



ず。又以て滿洲國の範となし難し。其他の諸國に於ては是れを史乘に徵するに、皆建國に當り荆棘を芟除し、豺狼を驅らざるもの少れなり。故に人和は必ずしも是れをその始めに期すべからず。成吉思可汗の、敖難河畔に九旒の白旗を建つるの時は、蒙古民族皆その脚下に伏せしに非らず。乃蠻を征し西遼を滅し、花刺子模を討ち、而して帝業始めて成る。現時の滿洲國は、纔かにその形を成せりと雖も、その實未だ擧らず。幸ひ我帝國は強大の勢力を傾けて、これが保護に任じ、その成育に力むと雖も、月の盈虧猶十指を屈するに至らず。焉ぞ克くその成を望まんや。加ふるに張氏一家の天祿を竊み、公を私せしにより、恩を賣り利を興へ、奸人その麾下にあるもの少なからず。豺狼狐狸、黒水に、遼右に瀾漫せり。

支那の民族

由來、支那民族は事大の思想に強く、舊習に泥み易し。滿洲國の成るや

三千餘萬手を額にして是を慶すれども、未だ一人の毅然として豺狼を驅るものなし。而も新法利あるを知るも、舊慣の害に泥み易し。加ふるに新政府の私利を禁じ、中飽を借さず、私兵を許さず、公理により處斷するは皆土豪豪猾の徒の好まざる處なり。故に張氏の舊により、苛斂の先驅をなすの利を忘る能はず。是を以て或は豺狼となり、或は狐狸となり、蛇鼠となる。比々皆然り。我皇軍は大義を以て華隣の誼を修め、新國の成を助けんが爲に遼黒の流域に轉戦するも、滿地の萑苻又芟除に易すからず。

國際聯盟
と米國

加ふるに國際聯盟の如きは、現状も歴史も知らず。その來りて之れを調査するや、粗漏杜撰曠日彌久し、力むる處少なく、晏居して在支歐米人の言を唯一の資となせり。その言たるや銅臭も亦少なからず。百鎰の黄金も歌舞の美女も、皆織りてその報告書の中にあり。之に加ふるに米國の嫉妬

大行の嶮、蜀道の難

猜疑を以てす。米國は中心より我帝國の強盛を欲せず。事毎に我帝國を抑壓せんとす。是れ過去二十餘年の實例なり。彼等我移民を排斥せしに鑑み他日是れが復讐を我帝國の行ふならんと疑へり。而して米人の心理は倨傲不遜なるを以て、我帝國の屈伏せざるを快しとせざるによる。故に諂諛是れ力むる支那人を愛し、支那人の詐る所となるを知らず。支那を辱するものは我帝國なりとし、極力我れに抗争せり。而して最近に至り、我帝國の敢然として立つや、驚懼して、數々我帝國と争ふべき意志を有せざるを聲言し、自己の弱きを露せり。

我國論
の如し

國際聯盟はその無力なるにより、米國を引援して我帝國に當らんとするも、米國は傳統的に國際聯盟と共にするを欲せざるを以て、事遂に成らず。我帝國の決心は當初より一步も之を變せず。その争ふべきは之を争ひ、國

論の堅きは鐵石の如く、内閣を易ゆる事三次に及ぶも、終始一貫微動だも之を變せず。昨年末の如きは、歐米諸國は一致して我帝國を壓迫せば、遂に屈伏するならんと信ぜり。然るに十三對一の強固なる決心に驚き、その如何ともすべからざるを知れり。然るに猶彼等その非を悟らず、小國等の紛々諍議をなすを容認せり。小國等はその滿洲たると、支那たると關する所に非らず、盲動論議せるのみ。大國等は陽に之を憂ふるが如く、陰に之を助けり。罪成らば容れて自己の用となし、事ならざれば罪を小國に嫁せんとす。蓋し猾の至れるものなり。我帝國は全世界を敵とするも、決して屈するものに非らず。正義に仗り之を行はゞ、敵衆しと雖も必ず潰へさのみ。

學府
政府と南

支那は、全民衆決して滿洲問題に熱せるものに非らず。僅々少數の青年

學生のみ強辯せり。一般民衆は賦課の少なさと、謀求なき政治を欲せるものにして、對外關係の如きは之れを意中に含み。青年學生は雄辯術の學習と、愛國者の名を射んが爲に云ふのみ。而もその甚しきは、之を假て利を漁せんと力めり。南京政府は、國論統一の絶好の題目と機會なりとし、天下に怒號し、以て蔣家の勢力に供せり。その甚しきは、本年の初春の上海事變是れなり。而して歐米の援助により、我勢力を上海より驅逐せんと欲し、是を行ひ、却て我勢力の樹立を揚子江口に確認せり。爾來その行ふ所、事毎に成らず。最後は專制の彈壓を行はんと欲せり。然れ共力微にして、恐くは有終の美を成さざるべし。その間に乘じ、浸潤せるは共匪是れなり。共匪はその源を露國に發せしが如しと雖も、現時は露と相撥くと否とに拘はらず、完全なる匪賊なり。揚子江の一帶は皆匪界の中にあり。故

に之を外にして、我帝國と相争ふが如しと雖も、之を内にして土崩瓦壞、又既に收拾すべからず。河北山東相次で亂れ、閩粵亦南京政府の下に在らず。加ふるに各將領、陰に人を我帝國に派し、款を通じ援けを求めんと欲せり。此の如くして何の處に國論の統一あらんや。その蔣家たると、張家たるとを問はず、同一の方法により是を行へるものは、同一の結果に歸するは當然なりとす。

國際聯盟の無知なるや、是れが真相を知らず。猶支那を統一せる國家なりと信ぜるが如し。最近はやゝ不統一を感じりと雖も、未だ斷定するに至らず。米國の如きは、斷じて滿洲國を承認せずと云へり。笑ふべきに至りなり。滿洲國は、米國の承認により、始めて成立するものに非ず。國際聯盟の承認により、始めて成立するものに非らず。特に國際聯盟の如きは、

滿洲國の將來

天に唾するもの

その承認を興ふべき權能^{けんのう}も有せず。獨立せる國家は、之れが權能を有すと雖も、聯盟の如き無形の國家は、認否兩ながらなし。蓋し聯盟は一の春郊^{しゅんきやう}に於ける陽炎のみ。我帝國に於ても、外國事情に暗^{くら}き人士は、聯盟の響笑^{きやうせう}を論じ、米國の舉措^{きよそ}を慮^{おぼ}かるものなさに非らず。不肖^{ふせう}は常に是等の人の爲にその蒙^{まう}を啓けり。春郊の陽炎たる聯盟は素より言ふに足らず。米國の如きも、承認せざるも亦憂^{うれ}ふるに足らず。滿洲に居住しその業に就かんと欲せば、不承認國は甚しく不利を蒙らざるべからず。通商^{つうしやう}の利亦著しく減ぜらる。その不承認より享^{かう}くる所の損害^{そんがい}は、滿洲國に非らずして正しく米國にあり。滿洲國は明かに門戶開放を云ふも、大門^{だいもん}を公然^{こつぜん}出入し得るものは、是れを承認せし我帝國民あるのみ。他は皆^{みな}公けに出入する能はず。常に不利を免れず。故に之れを憂^{うれ}ふるが如きは、杞人の天を憂^{うれ}ふると相等^{おなひ}し

きのみ。

大義帝國の

蔣、張二家の誤國^{ごこく}の罪は、彼等自から之を負ふべしと雖も、之れに嫉せらる、民衆は、惻隱^{さくいん}の情なさに非らず。在滿三千萬中、豺狼、狐狸、蛇鼠たるもの亦少からず。而も是れが餌となるもの亦少からず。然れ共一害を除くは、一利を興すより急ならざるべからず。故に我帝國は大義に仗り、滿洲國を助け、匪賊^{ひぞく}の害を芟除^{せんじゆ}せざるべからず。滿地の雀^{さく}符^ふも亦憂ふるに足らず。刈草^{かりくさ}の械^{くわい}を用ひば、時を期して成るべく、恐くは春^{はる}年^{ねん}を出でずして、豺狼は長城の南に驅られ、狐狸、蛇鼠の蠢々^{しゅんしゅん}たるのみならん。我邦人は匪賊なるものを知らず、故に甚しく之を憂^{うれ}ふ。不肖はその真相を語れりと雖も、九千餘萬の邦人にして、不肖と相談^{さうだん}するものは僅少^{けんせう}に過ぎず。故に大部分は依然^{いぜん}匪賊なるものを知らず。滿洲の匪賊は、往時より之れが全

本行の嶼、蜀道の難

滅せし時なし。恰も毎家鼠害あるが如し。要は豺狼を殲滅せば可なり。狐狸、蛇鼠はその出づるに随ひ、之を除かば可なり。甚しく害をなすものに非らず。若し夫れ全滿洲をして、一億以上の民衆たらしめば、雀符の盜も亦林藪に隠る能はざるべく、鼠竊時に生ずるも亦巨害を起すに至らず。現時の如く居民稀少にして、交通僻遠に、而も山林、沼澤、逃避に便なる地方を存する限りは、その根絶は絶対に不可能なるべし。

然れ共、匪賊の多きを以て、直ちに滿洲國の成立を、民意に反するものなりとなすが如きは、生盲の言と云ふべし。請看よ、大清帝國の當時は匪賊の存せざりしや。張家僭偽の時は匪賊存せざりしや。更に轉じて長江の南北、共匪の跳梁は、民意なりや否や。共匪の跳梁は、中華民國の存在に一抹の暗影とも與ふる所なく、往昔、張家僭偽の時の匪賊は適法の匪賊な

告盲の言

るも、滿洲國の匪賊は、滿洲國に反抗せる匪賊にして、その存在により、滿洲國の成立は、三千萬民衆の意に非らずとなすが如きは、實に驚くべき奇論なり。國際聯盟の派遣者が、如此き奇論を根據として、滿洲國の成立を信ぜず、我帝國の大義に仗る眞意を疑ふが如きは、容るすべからざる斷言にして、故に不肖は百鎰の黄金と、歌舞の美女を以て織成せる報告なりと云ふ。黄金心を迷はしめ、美女目を亂る。至人に非らざればこの兩害を免れ難し。况や庸人をや。然れ共、是の妄言を叨にする聯盟に對し、顰笑するも亦至人に非らず。故に我帝國人士も、決して是れを眼中に置かざるを可とす。滿洲國に於ても、聯盟の如き、米國の如きは、幻影の幽鬼を見るが如くなし、現實の反對となすべからず。朝陽光を放たば直ちに消散せんのみ。如此く諸外國の措置は、彼等自からの欲する所に放任し、決して

百鎰の美女歌舞

考慮の必要なし。上に云ふ匪賊の跳梁も、僅々歲月の問題にして、深甚の考慮を用ゆるの要なし。

二 天 利 の 難

寒と乾

人和の難點は概ね論じ盡せり。而して上に云ふ太行の嶮、蜀道の難は、秦より人和にも無きに非らざるも、天利も亦現状のまゝ放任せば、嶮難を變じて坦易となす能はず。天利の難は寒と乾にあり。二千餘年、遼の東西に建國の史乘なきに非らず。黒水の流域、金、清兩國興らざるに非らず。渤海も亦雄を唱へざるに非らず。而して國強ければ長城を南して河北に入り、國弱ければ終に存せず。是れ天利を有するも、天利を享くる能はざるによる。寒なれば地に物を産せず。乾ならば地に物を産せず。地に物を産

せざれば人息ふ能はず。人茂からざれば國終に弱し。是れ耶律、完顔の南下せし所以なり。愛親覺羅の如きは近々數代を闕せしに過ぎず。順治帝の時、既に山海關を南せり。渤海は終に契丹と唐に壓せられ、南下する能はざりしを以て、國終に除せり。然れ共、猶百餘年の久しきを支へたりしは朝鮮威靈道を有し、日本海を領せしによる。

滿洲國と
古の渤海

今滿洲國は、その領域を以てせば、古の渤海に比するに大差なし。現状を以てせば、東境は之を減ぜり。西と南は契丹、大唐の如き強隣に非らずと雖も、未だ馬を長城の窟に飲せしむるに至らず。幸に我帝國の大義に仗り之を助くるを以て、東と南とは、一家の如く自由に交通し、關東半島の形勝も亦、滿洲國の門戶の用に供せらるるを以て、古渤海國の如き貧弱の感なしと雖も、近寒と枯燥は、決して古今の間に大差を生ぜず。この困難は

太行の嶮、蜀道の難

商業の發展も亦然り。今日は却て生産の過剰に苦めりと雖も、生産過剰の苦は、生産缺乏の苦に比すれば、樂と云ふも可なり。是れ我民族の優秀なる智識の賜なり。是を支那に徴するに、人少なさに非らず。地狭さに非らず。物缺くるに非らず。而して大戦以後十有餘年、國勢益々凌夷して振はず。河北の旱、長江の水、天災荐りに至り、中に匪賊の害を蒙り、豪猾の將、私兵を擁し、一日の安なし。是れ實に民族の智識の乏しさと、結合心、義勇心の少なさにあり。即ち眞の國家を形成せざるによる。

四 大和民族の使命

山東
と
滿洲
移民

滿洲の現在人口は、河北、山東より來れる貧困者多く、往昔、順治康熙兩帝に従ひ、支那全土を征服せし、純滿洲人は極めて少なし。山東移民は、

決して優秀の人種と云ふべからず。純滿洲人は、過去の歴史に徴するも、勇猛果敢の風を存せりと雖も、齊東野人は決して優良の名を付すべき、四千年來の歴史を存せず。故に如此き人種のみを以て、滿洲國を組織せば、國の隆盛も亦期し難きを知る。故に滿洲國にして、現在人口の二倍、即ち六七千萬に達するに、山東移民を以てせば、數は充つべく、突を黔くし、火食し得べしと雖も、雄を東方に唱へ、我帝國と轡を列ね、國際場裡に雄歩するが如きは、決して望むべからず。

我民族の
使命

故に滿洲國の將來の人口は、必ず我が民族を以て充填せざるべからず。三千餘萬の全數を、我民族を以て充填せば、恐らくは世界の強國として、國際間に日英米佛獨伊等と相伍し、各種の國際問題を協商處理すべき位地に立つべしと信ず。如此き我民族の大移住は、事實に於て望むべからず。故

十一年間
一千万人に

に向ふ十箇年を期し、我民族一千萬人の移住を斷行せんと欲す。此事は實に滿洲國の將來に、至大の關係を有す。我帝國政府及び我國民は、滿洲移住につき、非常に獎勵せりと雖も、不肯は、滿洲國政府が更に進んで、帝國政府以上の努力を我移民になさざるべからずと信ず。我帝國は、國民滿洲に移住せざるも、存立を危くせず。地球上到處、移住するも可なりと雖も、滿洲國は我民族の大集團を移すに非ざれば、存立に危險を感ず。

滿洲政府
の任務

我帝國の生命線は、滿洲に在りと云ふも、滿洲國の生命線は、懸て我民族の移住如何に在り。故に我民族の移住に關して、滿洲國政府は十分努力をなさざるべからず。我帝國政府も移民獎勵には、相當の盡力をなせりと雖も、移民の最大條件は、生活の安定と容易とにあり。此の點を考慮せずば、假りに若干の移民ありとなすも、決して持續せず。移民とは必ず自己

の故郷を離るものにして、移住地の狀況が、自己の故郷より優良なるに非ざれば、決して定着せず。最近世相險惡、生活困難なるより、故郷を離れんと欲する念慮を生ぜりと雖も、移住地の状態にして、故郷より不良ならば、早晚歸郷すべきは明了なり。此の點に於ては、滿洲國は數等我帝國の下にあり。唯一點我帝國に居住するより優良なるは、公租の輕さにあり。是を除きては、一物も我帝國に勝るものなし。

五 滿洲移民の門戶

本安
な住の
大
め

之に次ぐは、關東州の自由貿易なり。然れ共、關東州の生活は、實際に於て我帝國の生活より低廉なりと云ふべからず。唯公租の輕さのみ安住の條件なり。關東州は滿洲移民の門戶なり。門戶にして閉鎖せらるゝ時は、

決して堂奥に進むものに非らず。不肖の帝國政府及び關東長官に望むは、先づ關東州をして、安住の地たらしむべき大本を定むるにあり。是を外にして、決して滿洲移民の成功を望むべからず。幸ひに現在武藤關東長官は大局に明なる名將なるを以て、誤算なかるべきを信ずるも、下僚は必ずしも然らず。官僚の常套たる煩瑣の手續を秩序なりと誤信し、加ふるに植民地官吏の通弊たる事務の遲緩を以てし、一日にして辨すべきを、一ヶ月を經るも猶行はず。失費多くして、事務進行せず。特に帝國政府の財政難に加へ、關東州豫算を豊かにせず。地方税源を増さんとする形狀あり。是れ不肖の深く憂慮に堪へざる所なり。

一文
百知
すの
らみ

如此せば、滿洲移民は聲大なるも、事實小にして、十年を期するも、一百万だも移す能はず。帝國政府の關東州に吝なりし所は、滿洲の扶掖の爲

其の十倍を費さざるべからず。是れ俚諺に云ふ「一文呑みの百知らず」とは是の謂なり。是れ帝國政府及び關東長官の英斷を請はんとする所なり。